

平成27年度第1回奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会議事概要

開催日時 平成27年7月24日（金）13:00～14:45

開催場所 奈良県立医科大学 厳櫃会館 3階会議室

出席者

（委員）安田委員長、狭間委員、堀委員、矢島委員

（法人）細井理事長、林副理事長、山下理事、車谷理事、古家理事、

その他関係課職員

（事務局）中川県知事公室審議官、木嶋課長補佐、

その他病院マネジメント課職員

議 題

- （1）平成26年度に係る業務実績に関する評価の検討について
- （2）平成26年度財務諸表について
- （3）役員報酬等の支給基準の変更について

公開・非公開の別

公開（傍聴者 0人、報道関係者 0人）

議事内容

- （1）平成26年度に係る業務実績に関する評価の検討について
 - ・法人より「資料1」の説明
 - ・事務局より「参考資料1」、「参考資料3」及び「参考資料4」の説明

[矢島委員]

女性研究者の支援について、対象範囲の拡大することにより、年度計画を上回っているとしているか。それとも、内容的にも少し変更等があったのか。また、支援員を配置は方策の1つであるが、それだけで出産・子育て期の支援として難しいものであるとする。その他の支援内容についても検討しているのか。

現在の支援についての効果はでているのか。

[安田委員長]

女性支援の実績はどのようなになっているのか。

[法人]

対象範囲を拡大したのはその通り。要望が多かった点、研究者育成の観点から診療助教及び研究助教も対象に加えた。支援内容については、支援時間を従来の支援より弾力的により多くの研究員が支援を受けられるように改訂を行った。

研究支援員の運用が議論の中心となっており、現在、その他の支援については十分な議論は行われていない。また、効果については、研究が継続して行えており、妊娠・出産等によるライフイベントでの退職者はゼロになっている。

実績については、資料が手元にないが、支援を受けているのは10名弱であると記憶している。

[堀委員]

県知事との将来像策定会議のタイムスケジュールについては、いつまでに基本構想を策定するといったものは決めて行われているか。

[法人]

議論をしていく中で課題が多くできてきているといった現状である。法人として考えていたタイムスケジュールよりは大幅に遅れている。知事においては、「建学の精神」が大切であると言っており、現在ようやく固まりつつある段階である。

[事務局]

知事からは、大まかな段取りとして、診療について「地域医療ビジョン」を今年度中に新たに作成するのに併せて、教育についても「教育大綱」を今年度中に作成しようとしている。医大との「将来像策定会議」においても今年度中に理念的な部分に関しては完了しようとしている。次年度以降は施設整備の基本計画の策定に進んでいこうとしている。

[狭間委員]

MBTが内閣府の「地域活性化モデルケース」の地方都市型の10件に採択されたが、地域包括ケアとの関係について伺いたい。

[安田委員長]

内閣府からの支援として、金銭的な支援はあるか。

[法人]

MBTの目的は高齢化社会への対応と、地域活性化であり、地域包括ケアも加味されている。地域包括ケアの概念は人によって若干違うが、MBTを基にしたまちづくりの中で実現していきたい。

補助金のような金銭的な支援はない。各省庁にヨコ串をいれるといった取組で、金銭的というより、人的に支援される。実際、橿原市に国土交通省、総務省、内閣府から課長級が5名ほど集まりサポートしてくれる形であり、今後、どのようなお金おとり方をすればいいか等の指示をしてくれるだろうと考えている。

[狭間委員]

研修のためのスキルラボの稼働率が 40%であるが、法人としてはこの運用率についてどのように考えているか。また、外部の方の利用できるように考えているか。

[法人]

40%というのはそう高くないと考えている。運用し始めたところであるため、活用面を整える段階で、徐々に運用率も高くなると考えている。看護部が中心となって活用しているが、医学科、看護学科の学生が活用できるように運用面を整えようと検討し始めている。

外部の看護師も活用できるように考えている。

[安田委員長]

漢方外来を開設しているが、他の医局との相互協力体制はどのようになっているか。

[法人]

漢方に専門の先生に診療を開始していただいているところである。他の医局からは、元々、漢方に興味のある先生がいるので、大和漢方医学薬学センターにおいて専門の先生に教えていただきながら研究しているところである。医局との関係については、漢方に興味のある先生が、漢方外来に患者を送っているといった段階の連携である。

[矢島委員]

医師等救急医療従事者の負担軽減対策を検討するとあるが、具体的な内容は何か。また、中期目標・計画期間中になんらかの負担軽減策の実現はあるか。

[法人]

困難な課題であり、検討を行っている段階である。基本的には人を確保するしかないと考えているが、それ以外に、効率的な運用や各診療科相互の協力体制を作ることが考えられる。

負担軽減策の実現ができるようにしたいと考えている。

[矢島委員]

ワークライフバランスの取組について、26年度においては短時間勤務の導入であるが、世間一般からすると非常に遅いと思うが、その運用について課題や課題に対する改善策を27年度に実行していただきたい。また、ワークライフバランスの改善を行うことで、業務改善に繋がるものである。

[法人]

まず、医師の数を増やすことで、実際に働く時間を減らす取組を行っている。次に、医師は、患者を診ている以上にコンピュータに向かっている時間がほとんどであるので、医師以外の補助者を配置することで業務の効率化を図っている。

超過勤務が課題で、全職から業務改善の要望が出揃ったところなので、中身を分析

し、改善に取り組んでいきたい。短時間勤務制度について、以前から育児に関してはあったが、介護、疾病、自己啓発等についても適用可とした。また、短時間勤務制度大きな特徴として、医員等の非正規職員にも制度が適用されるといった点である。

[安田委員長]

健康長寿コホート研究について、奈良に条件をおいた研究を行うのか。また、奈良県は健康長寿については全国的にどの位置なのか。

[堀委員]

調査対象の年齢は制限しているか。

[法人]

奈良県の住民を対象としている。県境長寿の要因について奈良県民を対象に調査し、その研究成果を全国に波及させたり、行政に活用いただきたいと考えている。

年齢制限はしてないが、基本的に 65 歳以上を対象としている。

[事務局]

奈良県の健康長寿は全国的にもトップというわけではないが上位である。

(2) 平成 26 年度財務諸表について

- ・法人より「参考資料 8」に基づいて財務諸表について説明

[堀委員]

病床稼働率が高く、非常に努力したように見受けられるが、平均在院日数は現在どようになっているのか教えていただきたい。

[法人]

平均在院日数について、平成 25 年度は 12.74 日、平成 26 年度は 12.66 日となっており、毎年減っている状況である。

[安田委員長]

看護師等の人員を増やしたおかげで収益が増えたといった認識でよいか。1 人あたりの収入率でいったら昨年度の方が良いといったことはないか。

[法人]

増員した分、それ見合いで増収している。

(3) 役員報酬等の支給基準の変更について

- ・医科大学より、「資料 3」の説明

→質問事項はなし。役員報酬等の支給基準の変更については、評価委員会として「特段意見はない」との結論に至った。

